



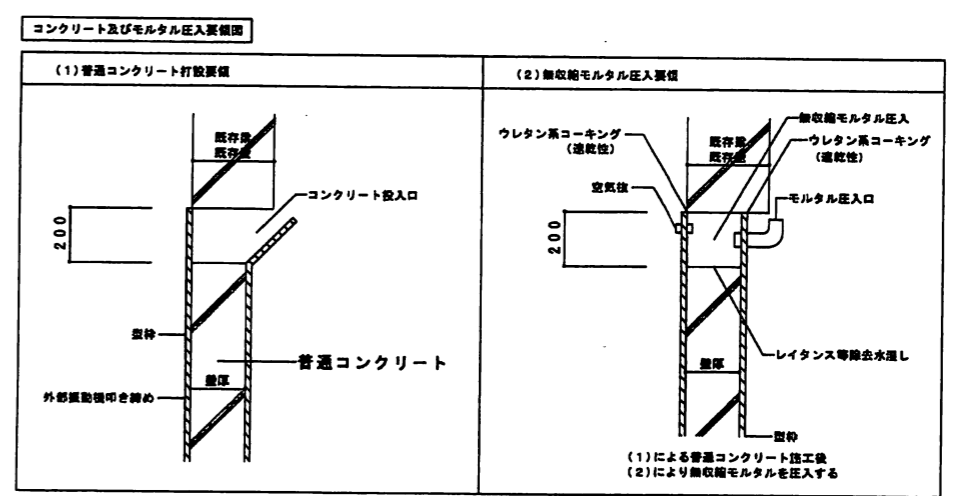




- 耐震補強一般仕様**
1. 使用コンクリート：設計基準強度  $F_{cd}=21 \text{ N/mm}^2$   
耐震補強用コンクリートは耐震材を使用するため、試し練りによって品質確認を行う。(但し、生コン工場に実績があれば省略する)
  2. 使用鉄筋：SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上)  
継手は重ね継手とする。
  3. 使用鉄骨：SS400
  4. 収縮補モルタル：設計基準強度  $F_{cd}=30 \text{ N/mm}^2$
  5. あと施工アンカー：接着系アンカーは有機系カプセル型のものとし、メーカーにより素材強度が保証された接着系アンカーとする。  
アンカー径は SD295A (D16以下)、SD345 (D19以上) とする。
  6. その他：補強材と既存コンクリート躯体との接触面については、既存コンクリート躯体面を磨き出し、コンクリート又はモルタル打設前に充分水濡しを行う。
  7. 備考：その他詳細に関しては、財団法人日本建築防災協会「既存鉄筋コンクリート造建築物の耐震改修設計指針・解説編」(2001年改訂版)による。

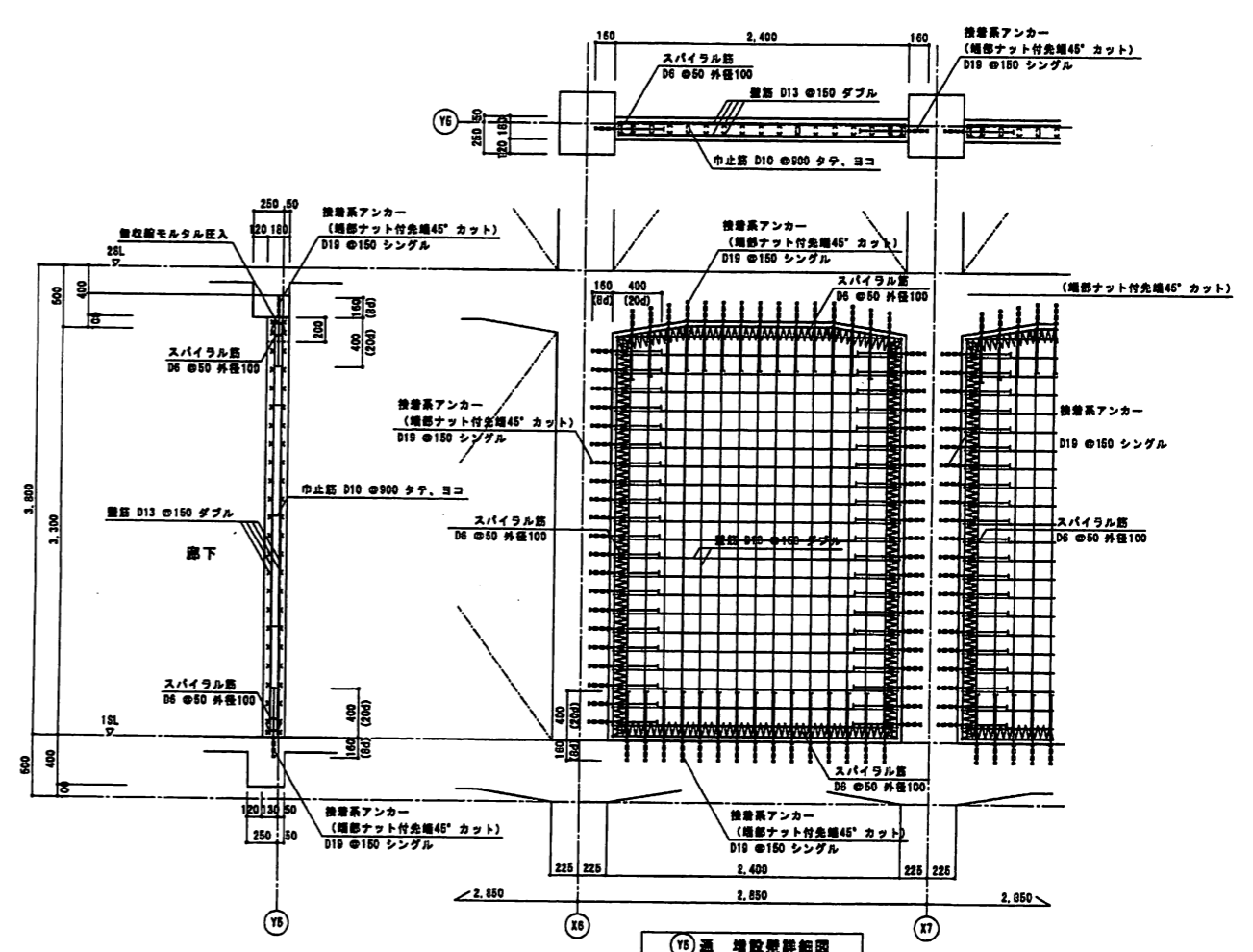
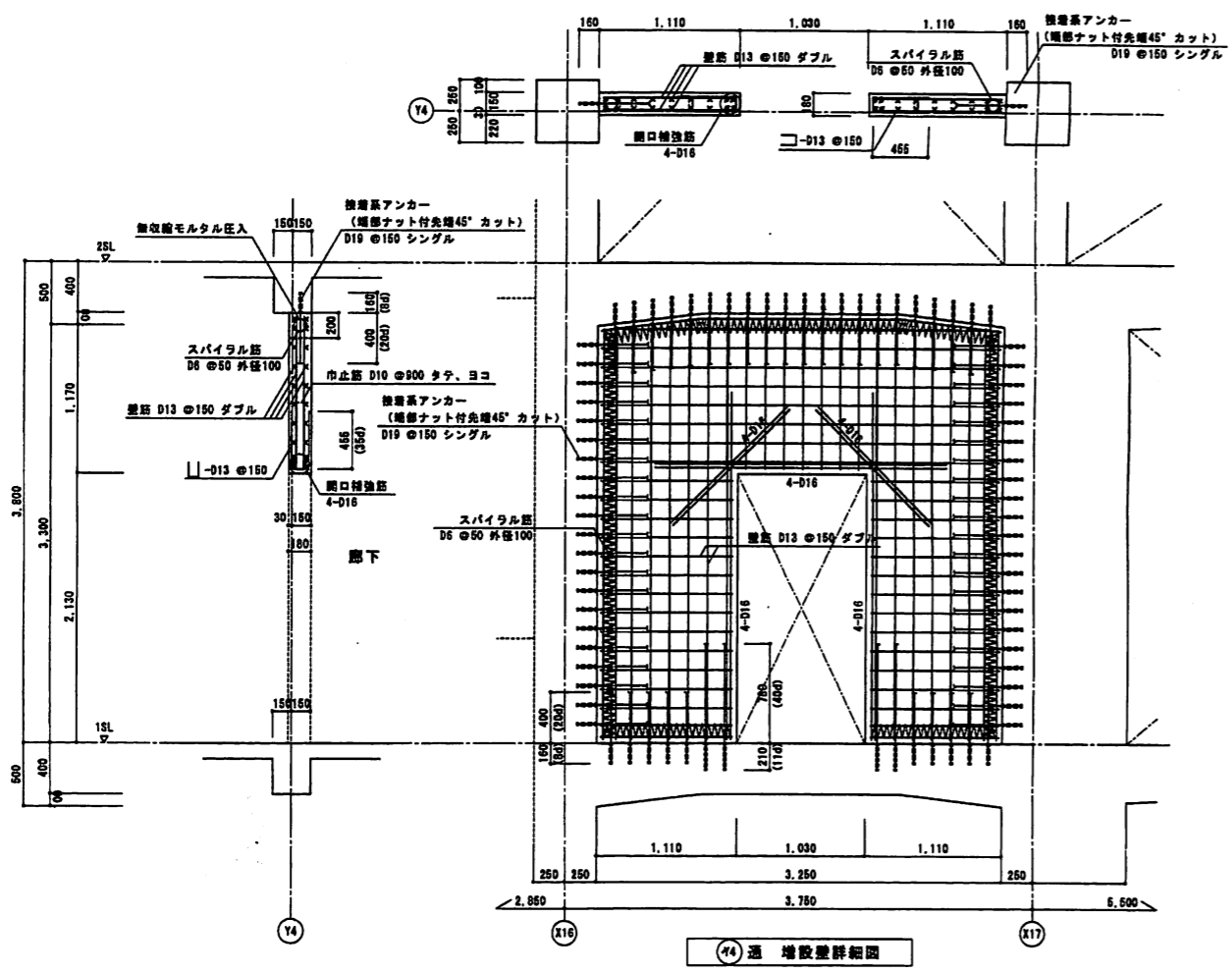
**接着系アンカー (L2)・アンカー筋 (L1)**

アンカー径	L2 (8d以上)	L1 (20d以上)
D13	105以上	260以上
D16	130以上	320以上
D19	155以上	380以上
D22	180以上	440以上

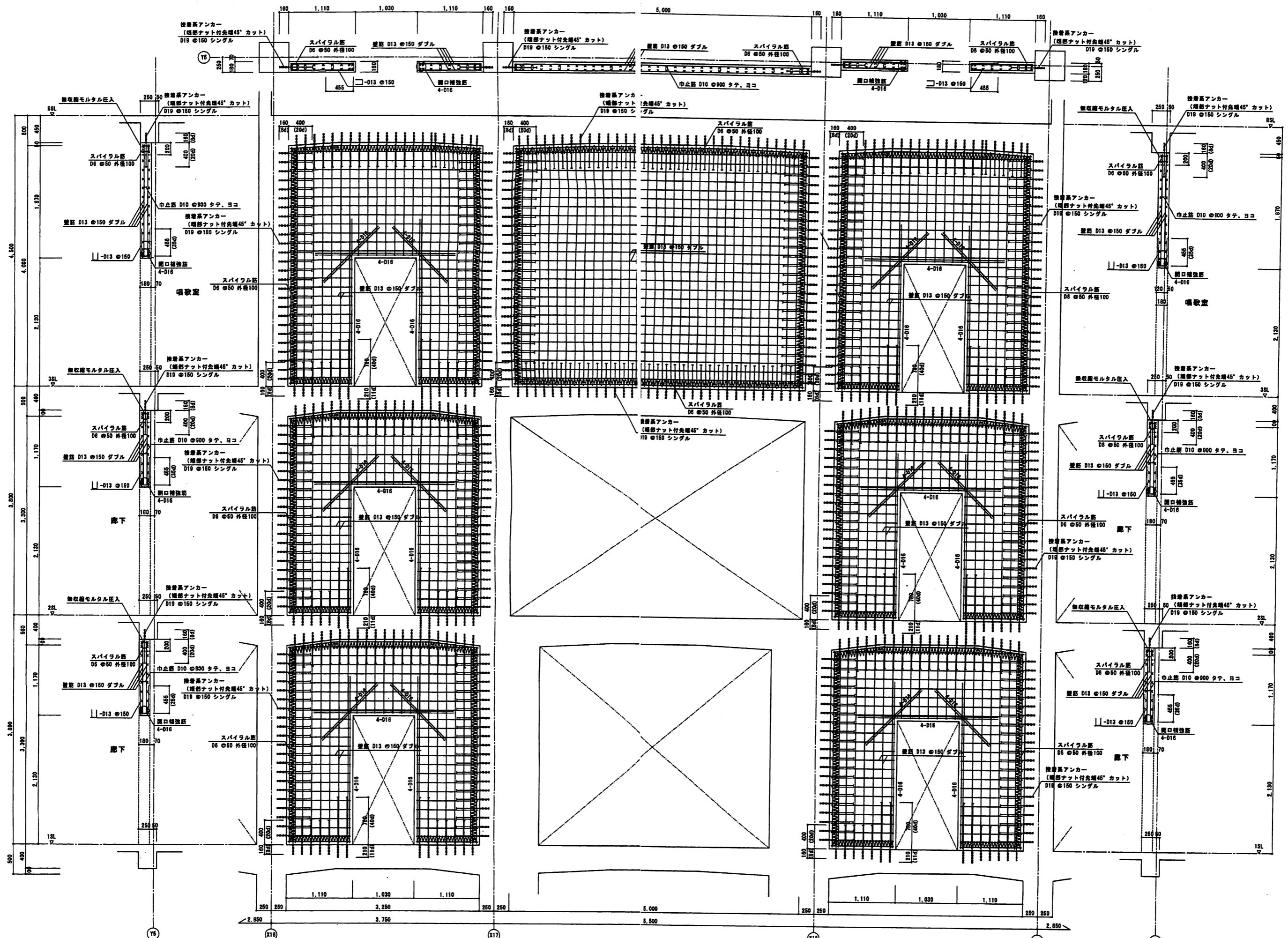


● アンカー接着力試験要領

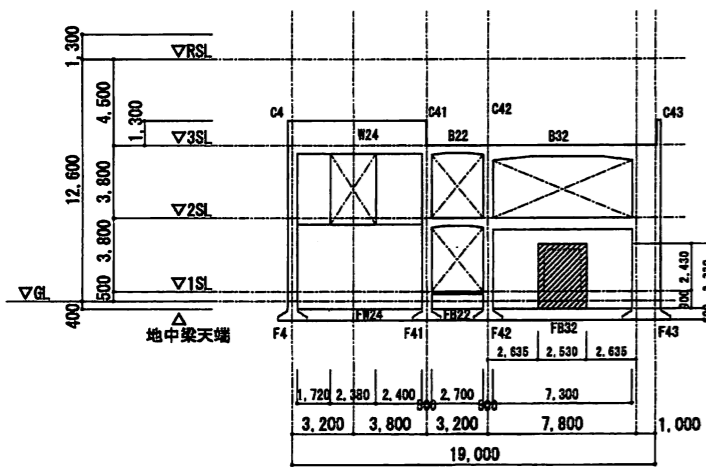
アンカーの接着力の検査は、全数を行なう。またあと施工アンカー協会 (JCAA) の試験方法により施工箇所について3本かつ3%以上引張試験を行う。引張試験は非破壊試験により、設計引張強度の2/3程度以上の荷重に達したアンカーが抜け出す等の過大な変形が生じなければ合格とする。検査のうち1本でも不合格のものがある場合は、全数の20%以上を再試験し、さらにその中に不合格のものがあれば全数を試験する。不合格となったものは新たに施工し直すことを原則とする。打撃検査は上記引張試験に合格となったアンカーを叩いて、音及び感触をつかみこれと比較して検査する。



\* X7-X8, X9-X10-X11, X20-X21, X23-X24, X26-X27, X29-X30 通り間も同仕様とする。



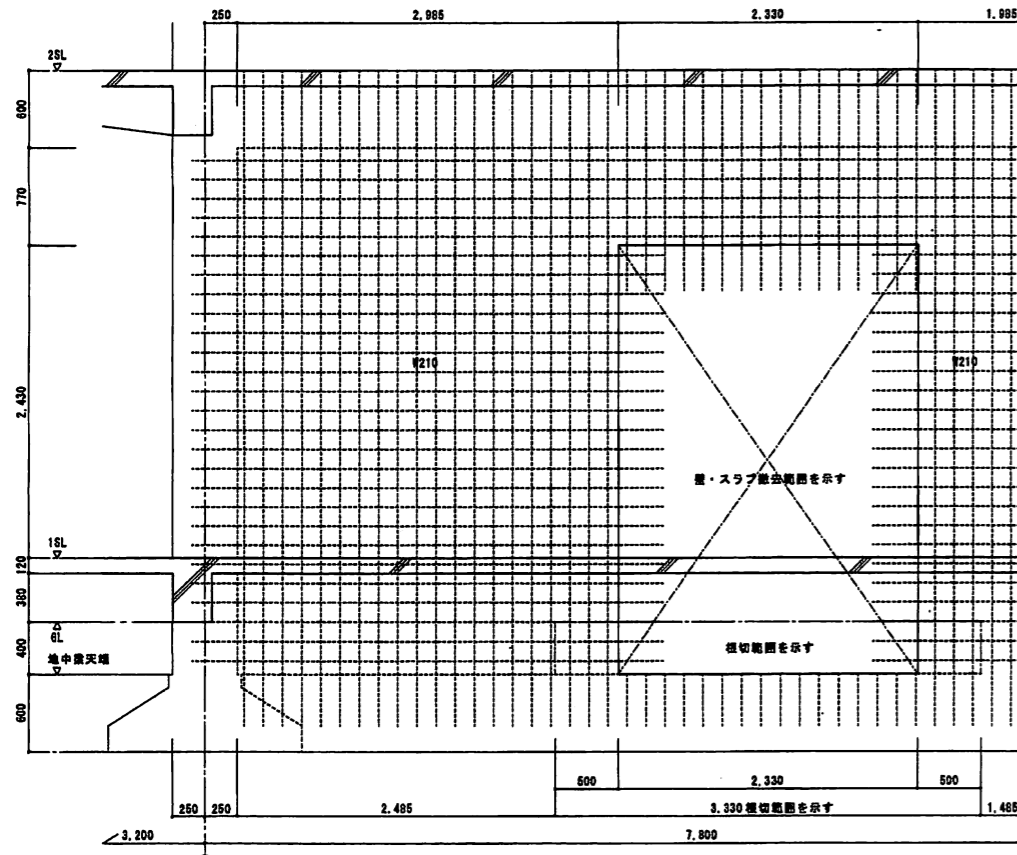
⑬ 基礎設置詳細図



Y1 Y3 Y4 Y5 Y7 Y6

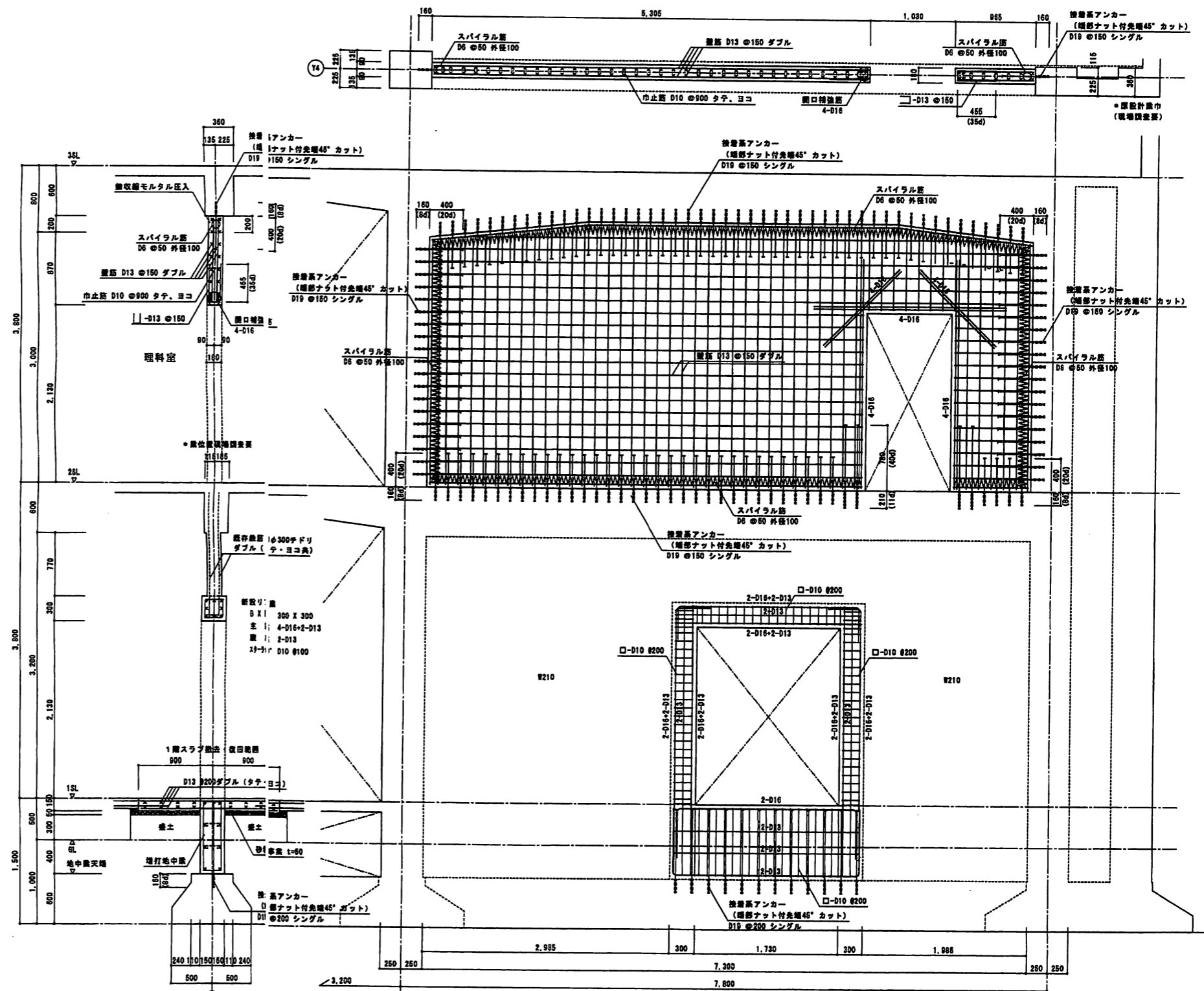
X4 透軸組図 S=1/200

● 既存壁 t=210 撤去範囲を示す  
 ● 共通事項 特記なき壁は t=210 とする。



X4 通 既存耐震壁撤去詳細図

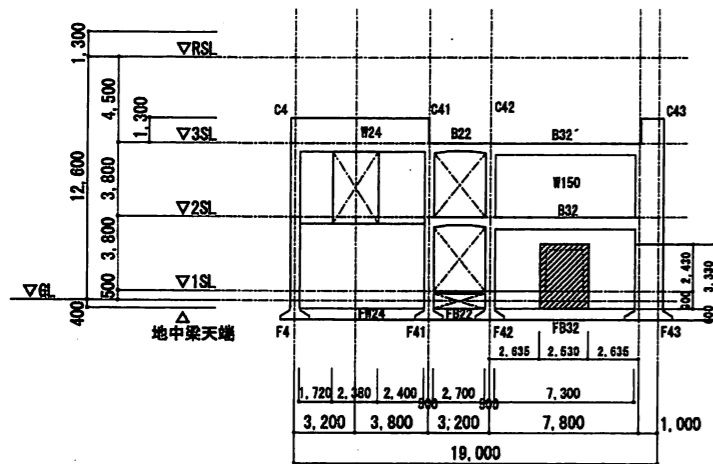
\* 境界部をカッター切の上、壁・スラブコンクリートを撤去し、既存鉄筋はコンクリート撤去面から 350mm 残す



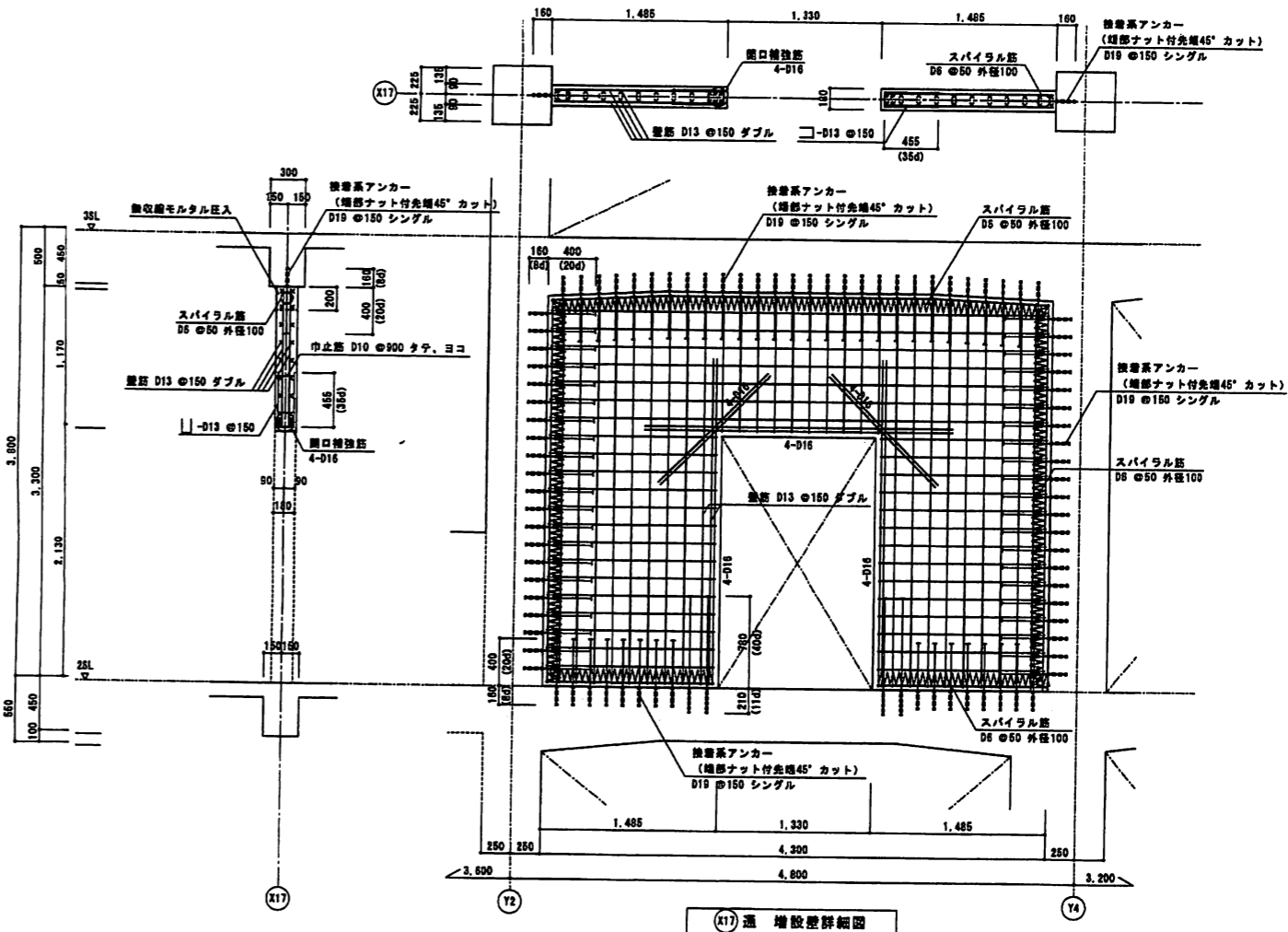
X4 通 既存耐震壁開口補強配筋詳細図

\* 既存鉄筋はコンクリート撤去面から 350mm 残し、新設リブ柱・梁・スラブ内に定着する (タテ・ヨコ筋共)

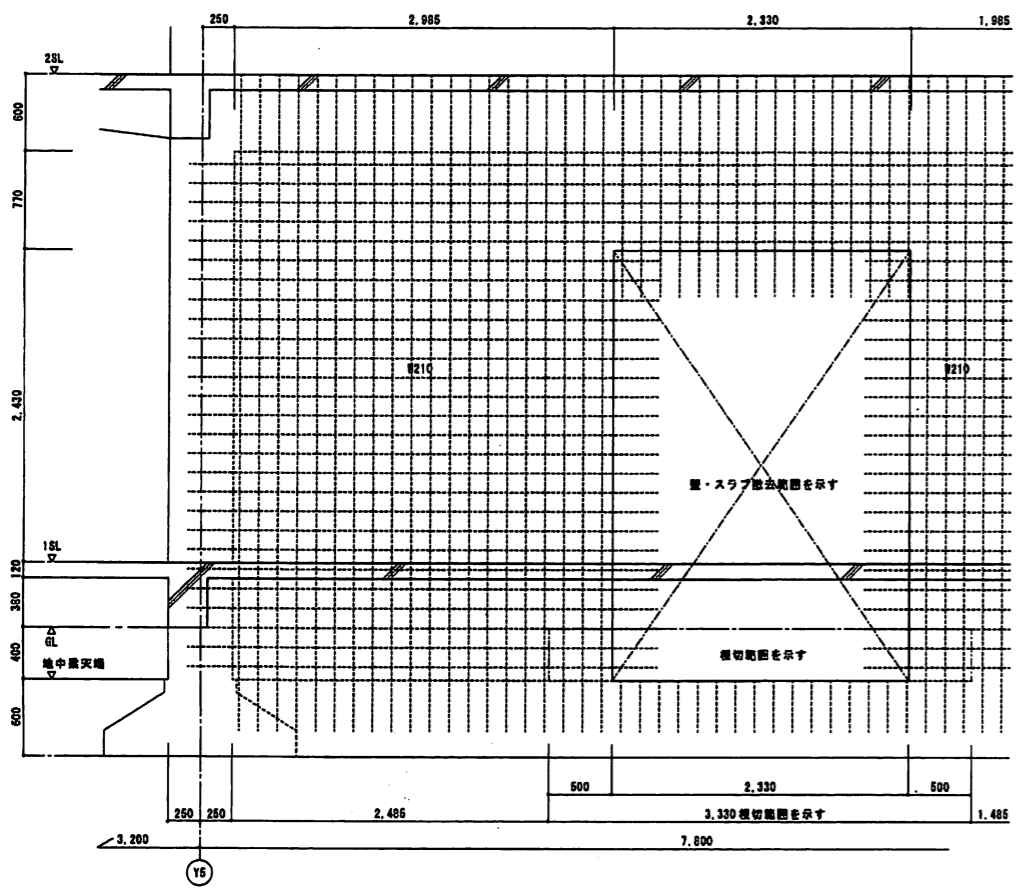
\* 既存スラブは復旧・新設、仮支持 (捨て支保工) を行う。



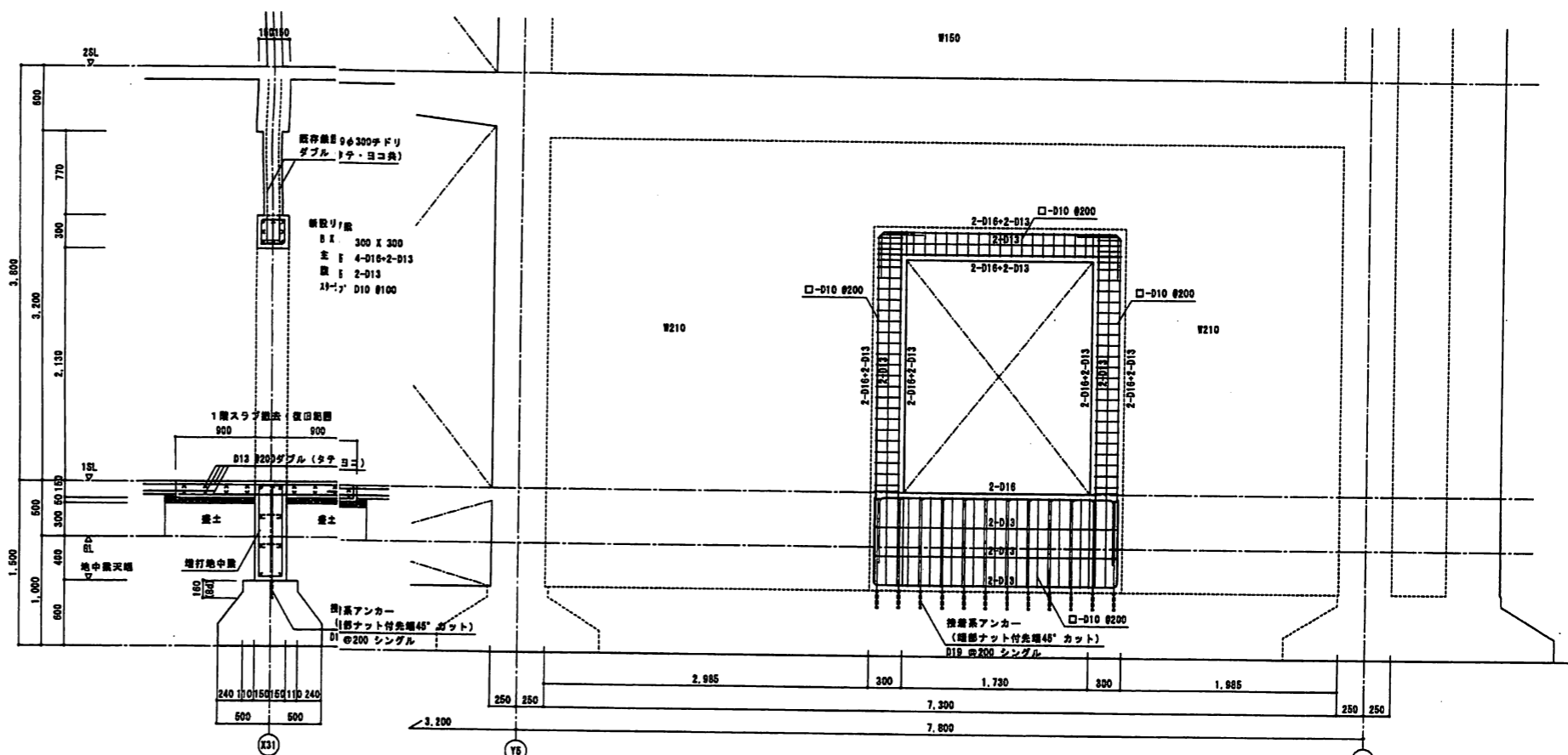
**X31 通軸組図 S=1/200**  
 ... 既存壁 t=210 撤去範囲を示す  
 ・共通事項 特記なき壁は t=210 とする。



**(X17) 通 増設壁詳細図**



**(X31) 通 既存耐震壁撤去詳細図**  
 ・境界部をカッター切の上、壁・スラブコンクリートを撤去し、既存鉄筋はコンクリート撤去面から 350mm 残す



**(X31) 通 既存耐震壁開口補強配筋詳細図**  
 ・既存鉄筋はコンクリート撤去面から 350mm 残し  
 新設リブ柱・梁・スラブ内に定着する (タテ・ヨコ筋共)

増設壁中継  
 B X D 300 X 900  
 上端筋 2-D16  
 下端筋 2-D13  
 壁筋 4-D13  
 X3-Y7 D10 φ100  
 ・既存スラブは復旧・完了迄、仮支持 (捨て支保工) を行う。